である。殊にその中には粟だの稗だのが一ぱい雜つて居る。どう思つても讀書が足りない。それからこの人達の言葉と文章とが別々な形なのだからずい分骨の折れる事であらう。と氣の毒でたまらない。文字でもこの觀るはこういふ時につかふ、この見るはこんなに見るのだ等といふ面倒さをとつくの昔通り越して文字はたゞ音をあらはす符徴にすぎない位のものであらう。あゝ早くどうにかしたい。しなければならない。しかし自分の力ではどうする事も出來ない。

□それから作文について思ひ出すことの一は文法である。一生徒が「先生文法なんてほんとに必要がない樣な氣がしますよ。だつてあんなこと習はなくてもちやんと分つて居るのですもの。」と言つた。必要がない、必要がない。これだけの言葉が、明かに今の文法といふ學科の價値を語つて居ると思はれる。どうすればもつと國語と文法とを密接な關係あるものにできるであらうか。そしていつもよく伺つて居た樣に——勿論その言葉の性質にもよるであらうが——ドイツでは小學校の上級になると文法上の誤謬なんか一つもなくなるといふ樣に、日本でもそうなればどんなにうれしい事であらう。多くの生徒は「もう〳〵文法ほどいやなものはございません」。と言つた。ほんとを言へば敎へる者自身もそんなに文法を面白いものだとは思つて居なかつた。しかし今こゝで敎へて見て、むづかしものだと知つて、はじめて一種の面白味を感ずる事が出來た。これは苦しい文法といふものを二時間もたされて得た尊い賜物であつた。

國語の讀本と關聯して例などもなるたけ讀本の中から出せとは學科生の時分によく〳〵伺つて來た事であつたが、一体どうすればこの國語の讀本とこの文法の敎科書との連絡がつくのかとう〳〵ちつともわからなかつた。どうしても文法は文法として特別な學科としておくより外道がないのであらうか。わからない事があつたらお聞きなさい」。と言つてもだまつて居る。どうしたらよく文法を敎へることが出來るだらうかと靜に考へても見た。例を出して發問すれば半分も手が上らない。尤も文章篇だから無理もないが動詞をつかまへて主語だと言つて見たり名



詞を說明語だ等といふ生徒もあつた位にわかつては居ないのである。主語とか說明語とかいふ言葉は知らなくてもまさか書く時に間違へる事はないからこれは後でもいゝとして、とに角一番誤り易い動詞の活用や助動詞への連續やは小學校の上級の時からでもその場合々々に當つて敎へて行かれない事はないと思ふ。

とに角國語や文法について解決されねばならぬ大きな問題の横はつて居る事を敎へて見てはじめて痛切に感じたのは私には誠に貴い大い賚賜であつたと思ふ。

## 圖書室よりの一隅

私はさしよのひつじであります。我が圖書室は文科の私どもには柔い香りの高い草の生ふる廣野である。外國から來る月々の報告、論文、雜誌、我が國の新刊書の數々、南蠻文庫武田文庫の各種、いづれも强い力を以て私どもを引つけます。

もう雪も消えました。春は甦りました。

上には明るい空を春の光を帶びた雲がゆる〳〵動いて居ります。下には青々した野が霞の中へつゞいて居ります。いで柔い草を踏んでゆるやかに野をあさりませうか。

## 中等學校に於ける作文教育

ボストンの Girls' Latin School の Carolin M. Gerrish 氏が校長會席上の講演の大要を申します。ひつじには少し硬すぎます。

この講演は三の部分から成り立つて居る。即ち(一)作文科が生徒の心の發達にどれくらゐ役に立つて居るか。(二)初等學校と中等學校との連絡はどうなつて居るか。(三)學校敎育の全体に通じて作文科のはたらきが行き屆いて居るかといふ問題を論じてある。これは孰れも我々の常に注意して居る問題であるが、まだ〳〵未了の問題として殘つて居る。

G氏のいふところに依ると、(一)作文が心の發達に及ぼす作用は二方面ある。一は考へる力を作ることであり、二は思想・行爲・情緒を確に美しい言語でいひ表はす力を與へることである。ところがどうも作文では考へること感ずることを書く前に書き表す方を習はねばならぬことゝなつて居る。今日の見方からいへば決して不自然ではないが一たい書き表はす前に考へなければなるまい、感じなければなるま

い。何を考へて居るか、何をしたか、どう感じたか今書かうして居ることは何か、といふことを確にするのが書き表はし方の秘訣である。又、文と心とがぴたりと合つて居るかどうかを觀るのが作文上達の有力なる批評法である。今の作文科では生徒の考へ方を指導して居るか、生徒がさういふ指導を心を練る實地練習と思つてやつて居るか、どうも怪しいものだ。いや、かういふと、それは作文の仕事と方角が違ひますよといふかも知れないが、商店では賣るより前に商品をそろへて居る。なぜ生徒の日常生活の上から題を選んで文を書くやうに仕向けないか。生徒の前に廣い天地が豁いて居る。自然の美・崇・高現代の智識・發明、人生の問題・充實いや何んでも手あたり次第である。これを以て生徒に向ふと眞劍にその本体を見つめやうとする。精確に鮮明に書くやうに氣が引き緊つて來る。こゝだ、この心が出來たら精神集注の力が湧いて來る。考へる習慣が生れる。それが創造的作文の素となるのである。どうも生徒が作文の實効をよく知つて居ないやうだ。私の敎へた生徒がやつて來て先生のお蔭で考へることゝ、考へたことを話すことを習ひましたと話してくれたがこの生徒は別に出來のよい方でなかつたのだ。作文科がこゝを考へて來なければ生徒の心の發達に何の役にも立つまい」と謂つて居る。中村春二氏の作文敎授法もどし〳〵日記を書かして開發的暗示的の批評を熱心に與へて居られるが、ある生徒の日記の印刷せられて居るものを見るといかにも筆が暢びて自由に思ふところを述べて居る。この筆が世の中へ出てから、さぞ本人の實生活に役に立つだらうと頼もしく感ずる。一般に作文に就いては此くの如き意見が多く現はれて來るやうに見えるが、併しながらこれ等の理論や實際の心理的基礎を正確に意識しないで、危かしい文藝評論の自己發現や生命の流露などを眞に受けて「言ひ表はし方（アウスドマリユックフォルム）」を蔑にするのは良くない風潮と思ふ。書く前に書くことを持つて居るといふことは、食ふ前に食物があるといふやうな、自明の理といふのも恥しい氣のするほどの道理だが、これが最近思潮の如く思はれるのは、偶々作文敎授が形式に陷つて居ることをよく示す反動の聲ではあるまいか。然り反動であると思ふ。作文の心的經過（メンタルプロセス）は



へることに始まつて書き終つたところまで連續するのであつて、書く前に考へよといふのと、誤りないやうに書けといふのは兩極端である。作文の全体ではない。私はどうしてもこの一端に執着する論者の狹い淺い考へ方に同意し得ないのである。

次に(二)初等敎育と中等敎育の作文科との連絡については極めて簡單で何等具體的の意見を見ないが我國では、これが頗る困難な問題の一として殘つて居る。初等敎育では上の學校へ進まない生徒が世の中へ出てから充分、筆が立つやうにしなければならぬので實生活に役立つやうにと努力する。中等敎育ではそれだけでは充分でないところを補ひ、それより一歩を進めるのであるが、口語、文語、候文とやうに國民文體の統一されない我國に於ては文の形を敎へるのに骨が折れて、作文の實力を練るといふ根本的問題を捕へて、よく兩者の連絡を考へるといふ當然の問題にさへ觸れることが困難である。この不快なタルミを何時になつたら解くことが出來るだらうか。何故に社會はこの民族的勢力に直接に關係する問題に冷淡であるか、私は外國の作文敎授の報告や論文を見る毎に、もつと國語に對する愛好、熱情、考察の生々と活くやうにならばとのみ思ふのである。

次に(三)どうしたら作文科のはたらきが學校敎育の全体に響き渡るやうになるかといふことに就いてG氏は消極的に、重なる障害を考へて三條(一)内容に精神を集注するといふことは必要でないといふ多少謬つた考(2)時間の欠乏(3)準備の欠乏（敎師の無能・改良に資する材料の欠乏）を擧げて居る。こんなことは何處でもいふものと見えるが、何の効もない議論であると思ふ。それよりも、もつと敏活と適切に効果のある當面の問題は各科の敎師は常に國語を受け持たぬ國語の敎師でなければならぬといふことである。同時に作文科では説明文を説明文として敎ゆるよりも各科の答案を作文改良の資料として、その解釋説明の書き表はし方を指導したら世に出てからも役に立つことゝ思ふ。記事叙事に於ても理科歴史地理算術等のノートを見たらいくらでも改良に資すべき資料を見出しうるのである。これを明確に書き得るやうになつて居ないなら、作文科の効果は各科

に徹底したといへないのであるし、又實世間に出てもあまり役に立つまい。次に何より作文の障害になるのは「文を作る」といふやうな態度であると思ふ。作爲といふやうな考があつては何時まで掛つても、文に活力を帶びて來ることは出來ない。「文は人なり」である。まがりなりにも眞劍の考が心の底から湧き出つる文でなければ文の意義はない。而して最も大なる欠點は小供の文を矯めて大人の文とする欠點である。小供には小供の考がある。大人には大人の考がある。小供の文章を心からの同情を以て鑑賞する學識がなければ作文科の効果は擧がるまいと思ふのであるが、所謂模範文などを模倣せしむるやうな作文教授から眞の力が湧き起る筈がない。もし模範文を見せて參考に供する必要があらば、何故にその年ごろのその氣分を持つて居る小供の心の底から生れた文章を提出しないのであるが。小供の文を書かんと欲する心を刺擊し、文を書く力を高めるものは小供の生活と緣の遠い大人の作つた所謂名文ではないと思ふ。文を書かうといふ氣も起らぬものにいや〳〵ながら題を與へて書かせて作文の効果が擧らないといふことは無理な注文であると思ふ。ひつじくせに議論などしては濟みませぬが承知の出來のないことは感服きでませぬ。感服のできないことは承知が出來ませぬ。

## 獨逸大學の新

昨年の暮にフランクフルトに新しい大學の設けられたことは既に御承知のことゝ存します。

一八〇九年奈翁戰爭の間にベルリン大學の建設されたといふ尊い回想が目下の戰亂中に於けるこの新大學の創立を著しい感しを以て迎へさせたといふことはドイツの諸新聞に著しく現はれて居ります。開校式は只演說と祝辭とだけで森嚴なる空氣の裡に行はれました。Frankfurter-Zeitung に依りますと、其の組織に於て、都市經營の大學たる點に於て、當該教官に於て特別の意義ある大學であることを力說して居ります。學科は在來の因襲的の四科制度でなくて法科・醫科・文科（フィロソフィー）・理科及經濟・社會學の五科より成り、神學がないといふことは注意すべき點であります。特に都市經營の大學といふことはドイツの教育制度の新問題で其の發



達は興味を以て注意せられて居るのであります。

このことは別に新らしい報告ではありませんが、目下の戰亂中に於ける獨逸のこの意氣は我々には決して看過すべきことではないと存じます。フランクフルト大學の創立を以てベルリン大學創立の當時に比し、意氣軒昂敢て勇往邁進せんとする元氣に充ちて居ることは我々の深く注意すべきことではないかと存じます。

近時、尊敬すべき識者の間に我が國の教育の効果の少なきを慨嘆する聲を聞くことは決して少なくないのであります。私はこゝに學術以外の時事を報導し評論する自由を有しませんが、教育界の現狀は果して現在及ひ近き將來の日本帝國の國運に對して全力を竭して居るであらうか。教育者は果して世界に於ける日本の關係の年こと日ことの推移を正しく觀測して居るか。學生の精神は明るい・強い・大い・深い元氣で充されて居るか。ベルリン大學建設の背景を思ひクランクフルト大學創立の現況を考へてドイツ民族の意氣に想到すれば、ひつじと雖ゆつくりして居られないやうな感じが致します。

## 中等教育に於ける時間經濟

これに就いてもう一つ申し上げたいと思ひますのは、世界に於ける教育の大勢が、生々した効果 Efficiency を擧ける工夫に熱中して居ることであります。

たとへば學科の內容・教授法・試驗法等に於てどうしたら大い効果を得られるだらうかと實驗心理的に研究して居ります。本誌にも教授に於けるエヒキシエンシー問題の一例を揭けました。試驗法は都合上省略しましたが、こゝにもう一つ、これ等の問題と關聯して時間の經濟といふことが研究せられて居ることを申し上げて置きます。

もし教育が數年を費しながら散慢で皮相的であつたら、人生全体の上から見て、これ程、時間の不經濟はない。

ドイツでは生徒が 240 日出席しアメリカでは 180 日出席して居る。どうもこれでは時間が足りない。何故健康な男生を一週六日だけで止めるだらか。午後の時間をどうするのか。夏休も長に失する。もつと時間を經濟的に用ひたらどうかといふ意見が起つて居る。中村春二氏は夏休を與へない。又、生徒を